

# 八戸工業大学 同窓会報

## 地域に愛されて三十年

本学は創立三十周年と大学院前後期課程完成を迎え、7月5日八戸プラザホテルにて、記念式典が行われました。この式典には、木村青森県知事、中村八戸市長をはじめ、県内の自治体や経済界、教育機関、本学教職員・OB代表・学生代表など約650人が出席し、地域と共に一層の飛躍を目指すことを誓いました。

高橋学長から「北東北初の工学系私立大学として開学し、教育理念として『よき技術は、良き人格から生まれる』を掲げ、将来を担う技術者の教育と社会に貢献できる研究を進めてきました。現在は、大学院4専攻、工学部6学科となり、在学生約2150人、教職員約240人、卒業生は約12600人を超えています。これからも学術研究・高等教育機関としての役割を果たしていきたい」との挨拶がありました。

また、国際交流に多大な功績のあった、中国・瀋陽工業大学の王爾智前学長と王成元学長に名誉博士号の称号を贈りました。



記念式典で挨拶する高橋燦吉学長

## 同窓会東北支部発足

去る5月18日、仙台市において「八戸工業大学同窓会東北地区同窓生の集う会」が開催され

第2号

3月・9月発行  
八戸工業大学  
同窓会本部事務局  
0178-25-8027

最初に、白川直人八戸工大同窓会長からこれまでの同窓会の活動が報告され、その後、「東北支部」結成のための支部会則・役員人事などを討議、東北支部長に、奈良坂進氏（昭和51年機械工学科卒）を選任した。会議後の懇親会では、参加者達がそれぞれ近況を語り合い、盛会の中に終了しました。

なお、6月15日に開催された八戸工業大学同窓会代議員会において、東北支部が同窓会の組織として正式に発足が承認されました。

## 八戸工業大学同窓会 東北支部

### 役員・幹事名簿

名称	氏名	卒業学科	卒業年月
支部長	奈良坂 進	機械工学科	昭和51年3月
副会長	後藤 嘉則	土木工学科	昭和55年3月
同	相沢 昭也	電気工学科	昭和54年3月
会計	藤野 亨	機械工学科	昭和53年3月
幹事長	若松 由三	建築工学科	昭和55年3月
副幹事長	淀川 善弘	機械工学科	平成元年3月
幹事	千葉 雅之	土木工学科	平成元年3月
同	山谷 清蔵	電気工学科	昭和51年3月
同	大和田 昇	建築工学科	昭和57年3月
同	遠藤 健志	機械工学科	平成8年3月

上記のとおり、平成14年6月15日開催の代議員会に於いて承認された。

## 学生の目線で考える教育 進む本学の教育改革

本学は、「学生の目線で考える教育」を実施しています。これは、近年の大学のユニバーサル化に伴う学生の多様化に対応し、成果ある4年間の教育を実施するものです。この実施のために、入学前交流講座、学生による授業評価、教育シンポジウムや高大連携教育（高校と一緒

になって教育を考えるものです。）を実施しているところですが、この改革を一層進めるため、平成14年度からは新学務システムやナイトスクール制度を導入し、さらに優れた教育環境を学生に提供しています。

新学務システムは、これまでの出欠調査システムや成績集計システムの老朽化に伴って、平成14年度から新しく導入されたシステムです。今回の導入によって、履修登録から受講者名簿作成および出欠状況調査までが一体化したシステムとして行われるため、これらの情報が迅速に教育の場で利用できます。今後、出欠状況に合わせた単位取得状況などを速やかに提供することができるようになり、教育の様々な改善に役立つものと期待されています。

ナイトスクールは、学生に適正な夜の学習環境を提供するものです。3、4年後輩に授業などでわからなかったことへの相談を受け付けるため待っています。毎日の学習の中で、不明な点があったときはこのナイトスクールを活用して、翌日の授業に備えることができます。図書館を利用して、日常的に学習できる技術者になってほしいと思っています。いい教育成果を上げるためには、毎日の学習が大切です。継続するためには努力が必要です。地道な努力から大きな成果が生まれます。在学生はナイトスクールの大いに活用してくれることを思います。

## 生物環境化学工学科 スタート

本年4月から「生物環境化学工学科」がスタートしました。入学者数は73名（定員数60名）で、新入生の目的意識は高く、意欲満々です。入学生の出身地は東北地域を中心に、北海道、北陸、関東各地域に及んでいます。

新学科の教育環境の充実化を図るため、100名収容できる第1、第2実験室を新設しました。この実験室に隣接して、全員がパソコンを1台ずつ使えるサテライトルームも設け、実験と情報処理が同時に行えるよう工夫されています。また、学生が授業時間外に落ち着いた雰囲気での学習ができるよう、広いスペースにゆったりとテーブルを配置した自習室を設けました。

新入生の目玉授業として、週始めの月曜日午前中に開講される『生物環境化学工学導入デザイン』があります。この授業は新入生が工学への関心を深めることを狙ったもので、学科のほぼ

## 新 異分野融合科学研究所

本学では、多分野を横断的に研究する「異分野融合科学研究所」を新設し、新たな研究活動を推進していくことになりました。

本学には、これまで食品工学研究所、情報システム工学研究所、構造工学研究所の3つの研究所が設置され、6学科と大学院及び地元産業界と連携しつつ、先端科学の研究開発の推進を目的に精力的な研究活動を行い大きな成果を挙げたが、多様化する現代社会に対応するため、このほど3研究所を統合して文系教員の研究分野をも取り入れた異分野の研究の融合という新しい考えにたつた総合的な研究所として開設することになったものであります。

新研究所は、今後、幅広い分野を結集した組織として、全教員参加の下で基礎的な研究はもちろん、工学に限らない他の分野を積極的に取り入れ、研究会の開催や技術者の養成、地域の技術交流などの事業を積極的に展開し、更に産業界との連携も深めつつ活発な研究活動を行っていくことになっています。

## 広がる国際学術交流 ウェスレー大学と

### 学術交流協定を調印

本学では、昨年5月から米 国ウェスレー大学 (Wesley College Institute) との学術交流のための準備を進めてきましたが、このほど増田陽一郎学長補佐を団長に鈴木直通法人事務局長、長谷川明教務部長、町屋昌明助教授の4名が同大学を訪問し、3月25日（日本時間26日未明）の調印式において、スコット・D・ミラー学長と協定書を取り交わしました。この調印により、本学とウェスレー大学は、(1)学生の交換留学、(2)教職員の教育研究交流、(3)集中語学研修、(4)文化学術交流を目的に、相互に交流を推進していくことになりました。

## 自家発電設備を導入

本学では、光熱費の節減を目的に学内に自家発電設備を導入することになり、昨年10月に着工、4月22日に、発電設備の前でテスト運転を行って本格運用を開始しました。導入した発電設備は、185kWのディーゼル発電機4基、



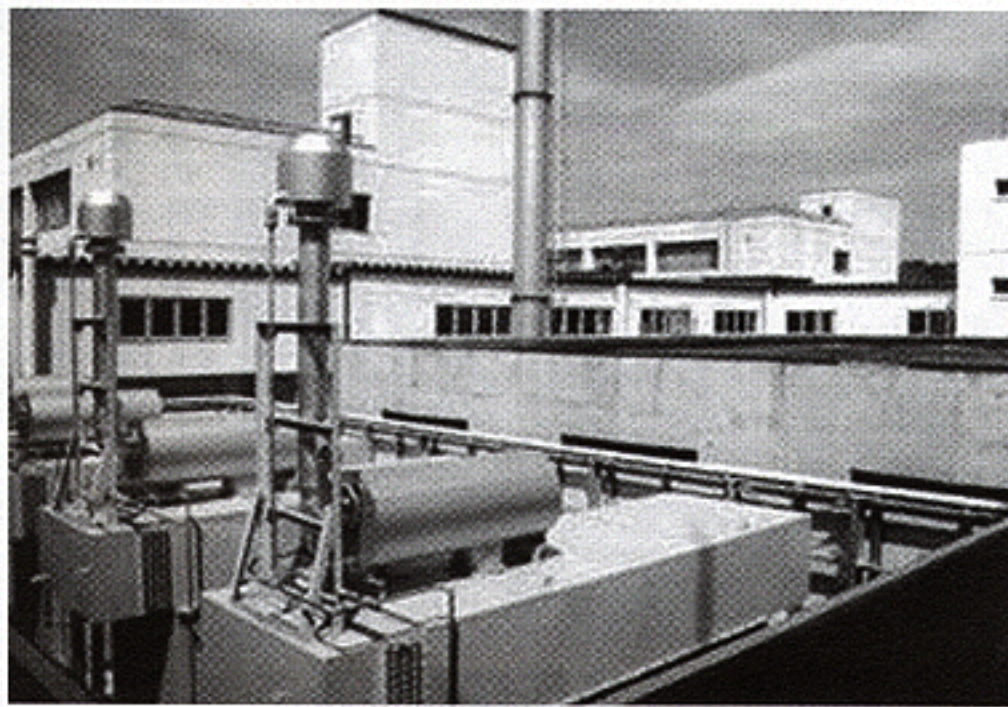
調印を行う増田団長（左）と S.D. ミラー学長（中央）

今回の訪問で、本学の学生が同大学で行う語学研修のプログラム等の実務的な協議も合わせて行われました。この夏から実施される語学研修の成果に、大きな期待が寄せられています。第一回目の語学研修は8月5日から2週間実施され、13名の学生が参加しました。

ほ中央に位置する化学工業や食品加工が盛んなことで知られるデラウェア州の州都ドーバー市にあり、1873年創立のキリスト教精神に則った教育理念のもと、主に教養教育を中心とした教育を行っている伝統ある男女共学の私立大学です。校地面積は、約20エーカー、その他、総合運動施設、図書館、科学館などの施設を備えています。学生数は約1400人、全米30州から集まり、男女ほぼ半々の割合で、その約6割がドミトリイと呼ばれる学生寮に居住しながら勉学に励んでいます。大学のあるドーバー市は、人口約4万、英国風の古い町並みを残した落ち着いた雰囲気のある町で、治安も良く、気候も温帯モンスーン気候で過ごしやす土地で、ニューヨークへは車で数時間、ワシントンDCへも電車で2時間と、交通の便にも恵まれています。



本学ではこれまで、電力会社との契約電力量は1050kWでした。この自家発電設備を導入することによって、契約電力量を370kWまで下げることができ、約20%の経費の削減が可能となります。本学では今後もこうした経費削減に努め、設備を導入して削減した経費を、学生等の教育研究活動に活用することになっています。



自家発電用ディーゼル発電機

高松 清治 (図書館情報・事務室 副参事)  
平成7年4月から大学勤務。

### 超難関を突破！ 機械設計技術者試験3級

「平成13年度機械設計技術者試験(3級)」に挑んだ機械工学科の2年生の安孫子将朋君(山形工高)と3年生の五十嵐研君(新潟工高)が見事合格しました。この試験は、(社)日本機械設計工業会が実施する準国家資格試験で、今回の3級試験は、東北地区での合格者がわずか8名という超難関となりました。機械情報技術学科では、就職対策の一つとして資格取得の指導に力を入れており、平成10年度の試験に12名の合格者を出して以来毎年合格者を出しています。これまでの合格者数17名というのは、東北地区の工学系大学でトップの成績です。

### 受賞

「日本液体微粒化学論文賞」受賞  
機械情報技術学科 大黒 正敏 助教授



機械情報技術学科の大黒正敏助教授が、平成12月20日、22日、大阪市立大学を会場に開催された「微粒化シンポジウム」の席上で、「日本液体微粒化学論文賞」を受賞しました。この賞は、同学会が創立10周年を記念して、過去10年間に発表された50編の論文の中から3編を選んで授与したもので、独創性と有用性が高く評価された大黒助教授の論文は、同学会の会報「微粒化」の1999年12月号に掲載された「自己制御機能を持つ二流体噴射弁の特性」という論文。これは大黒助教授が中心となって取り組んでいる液体燃料の燃焼などに用いられる噴射弁に流体素子を組み込んだ場合の特性まとめたものであります。



計測自動制御学会東北支部「優秀発表奨励賞」  
機械情報技術学科 小玉 成人 助手

平成14年6月22日、本学会が会場となった開催された「計測自動制御学会東北支部第195回研究集会」で、機械情報技術学科の小玉成人助手が発表した論文「風力発電の系統連係時の出力変動」が「優秀発表奨励賞」に選ばれ、表彰状と記念品が贈られました。若手研究者として小玉助手には、今後の研究成果に大きな期待が寄せられています。

「日本ウォータージェット学会論文賞」受賞  
生物環境化学工学科 伊藤 幸雄 教授



生物環境化学工学科の伊藤幸雄教授が中心になって研究を進め、伊藤教授の下で研究を重ねる春本学大学院工学研究科博士前期課程修了の内山恒久さん連名の論文(日本ウォータージェット学会誌「噴流工学」第18巻第2号に掲載)が、本学会の論文賞を受賞し、去る4月19日に開催された平成14年度通常総会の席上で表彰されました。

永年にわたる研究活動と同学会への運営及びガスタービン工学の技術発展への貢献が認められたものであります。

国際会議で「最優秀論文賞」受賞  
環境建設工学科 竹内 貴弘 助教授



環境建設工学科の竹内貴弘助教授は、2001年6月にノルウェーで開催された第11回国際論文「Ice Load Equation by Medium Scale Field Indentation Test Data」に対し「Best Paper Award」(最優秀論文賞)が贈られました。授与式は、2002年5月26日北九州国際会議場で開催された第12回「ICE」のバンケットの席上で行われ、同助教授に受賞額が手渡されました。この会議は、1991年イギリスのエジンバラで第1回目が開催され、主に海洋工学に関する研究成果を発表する場では現在最も大きな国際技術会議で、今回、対象となった論文457編中、竹内助教授の論文が唯一の受賞となりました。

### 体育会戦績

卓球部2年連続 インカレ出場！

5月25・26日に宮城県塩釜市で開催された全日本大学対抗卓球大会東北地区予選会において、本学卓球部が東北第3代表の最終枠を勝ち取った。代表決定戦では東北学院大学を3対1で破り、昨年に続き2年連続3度目の全国大会へ出場することになった。部員数7名という極めて不利な条件を、文武両道で養った精神力で補い、好結果へとつながった。8月1日から千葉市で開催される全国大会では、予選リーグを通過し、決勝トーナメント出場を目標に毎日練習に励んでいる。

ボクシング部7度目の団体優勝

6月29・30日、第30回東北地区ボクシングトーナメント大会が、郡山市の日本大学工学部体育館で開催され、本学のボクシング部が7度目の団体優勝を果たしました。

ライトフライ級で橋本俊(建築工学科1年/青森・六ヶ所高)さんが認定優勝、フライ級で



今後の活躍が期待されるボクシング部一同

紺谷陽広(機械工学科3年/北海道・苫小牧工高)さんとライトウェルター級で清水洋伸(機械情報技術学科2年/青森・八工大二高)が優勝、フェザー級で柿崎祐介(建築工学科1年/青森・青森工高)さんが準優勝という見事な成績をあげ、団体優勝の栄冠を勝ち取った。優勝した3名は、9月29日に秋田県で開催される第3回北海道対東北大学ボクシング対抗戦に東北代表として出場することになっています。

アイスホッケー部が県実業団リーグ加盟  
「まずは一勝」と意欲みせる

本学アイスホッケー部が今季から青森県実業団リーグに加わるようになった。ここ2年間の好成績が県アイスホッケー連盟に認められ、県社会人リーグから「昇格」。選手や佐々木宏監督は「まずは1勝したい」と意欲を見せている。アイスホッケー部は一昨年と昨年それぞれ3大会で優勝。東北地区大学選手権では2年連続Vを果たし、インカレに連続出場している。「社会人よりレベルが高い実業団でやりたい」という選手の要望を聞いた佐々木監督が県アイスホッケー連盟に実業団加入を申請。同連盟理事会でも「一定のレベルに達し、チームの強化にもつながる」との意見が大半を占め、今年6月に加入が認められました。

デビュー戦は、9月下旬から始まるデリー

東北新聞社旗争奪リーグ戦。佐々木監督は「勝る点は少ないが、実業団のチームに勝てないわけではない」と話し、上田、本間両副主将も「リーグをおもしろくするために、台風の目になりたい」と闘志を燃やしています。



実力を認められ、実業団リーグへ昇格したアイスホッケー部員たち

### 退職教職員

平成14年3月31日付で、次の方々が退職されました。今後のご健勝とご活躍を祈念いたします。

木村 克彦 (機械情報技術学科教授)  
昭和53年4月から勤務。専攻分野は、機械材料、教育学。

佐々木 一人 (電気電子工学科教授)  
昭和47年4月から大学勤務。専攻分野は、電力工学・電気機器工学。

梅森 庸 (エネルギー工学科教授)  
昭和61年4月から勤務。専攻分野は、電力工学・電気機器工学。

本間 健祐 (エネルギー工学科教授)  
昭和54年4月から勤務。専攻分野は、電子・電気材料工学、固体物性。

大黒 茂 (システム情報工学科助教授)  
昭和59年4月から勤務。専攻分野は、解析学、物理学一般。

福田 直 (総合教育センター教授)  
昭和47年4月から大学勤務。専攻分野は、経

済理論、経済統計学。

高松 清治 (図書館情報・事務室 副参事)  
平成7年4月から大学勤務。



日本ガスタービン学会「功労賞」受賞  
生物環境化学工学科 岡村 隆成 教授

平成14年5月24日、生物環境化学工学科の岡村隆成教授は、早稲田大学国際会議場井深大記念ホールで開催された「日本ガスタービン学会創立30周年記念式典」の席上において、同学会から「功労賞」が贈られ表彰状が手渡されました。今回の受賞は、岡村教授の



先輩による在学生への講演会 開催

7月24日、佐藤正広先生による講演会が本学のAVホールで開催されました。(略歴は後述)

『教員を目指す後輩たちへ』という演題で、佐藤先生が先生になったきっかけ、実際の教育現場での状況、本採用を勝ち取るまで、本採用になってからの教育現場に対する考え方、そして教員を目指す後輩・本人を含めての心構えといった流れで話は進みました。何時も教室の後ろに陣取る学生諸君も最前列に集合し、特に佐藤先生が指導した青森工業出身の生徒が熱心に耳を傾けていました。

佐藤先生が講師として青森工業高校に勤務して以来、本学に進学する生徒は従前よりも多くなっておりま

佐藤 正広 先生 略歴

弘前工業高校を卒業後、本学機械工学科卒業、平成10年3月、大学院機械システム工学専攻を修了し、青森工業高校の講師として勤務、平成12年の青森県教員採用試験に合格し、平成13年からは同工業高校教諭として勤務されています。

機械情報技術学科に関するメモ

『テクノと暮らし』機械情報技術学科 編

昨年、東奥日報に連載された表記の連載記事がまとめで一冊の本として出版されました。本学科が

地域社会とどんなつながりがあるのかを分かりやすく解説した本です。八戸市では伊吉書店で扱っております。

ロボットコンテスト開催

7月19日、3年生による恒例のロボットコンテストが開催されました。ミニサッカーボール、ピラミッド、四角柱のブロックを掴んで棚にきちんと並べるもので、リンク機構などにさまざまなアイデア

機械情報技術学科 情報欄

をこらした独創的なロボットが熱闘を繰り広げました。



ロボットコンテストの奮闘模様

イギリスでの国際会議で研究発表

6月29日から7月5日まで、エディンバラで開催されたILCC2002(液晶に関する国際会議)において、佐藤松雄教授が二編の研究発表を行いました。

高大連携

8月7日、釧路工業高等学校教員、秦 学先生(平成3年機械工学科卒業)、内田 幸先生(平成14年度機械工学科卒業)が、『実習教育に関する高大連携』の打合せのために工作技術センターと本学科を訪問します。

機械情報技術学科研究室めぐり

昨年度から、本学が中心となって地域と連携した大型プロジェクトが採択されています。昨年からスタートした『地域結集型共同研究事業』(事業費30億円、5年間)に引き続いて、今年度は『都市エリア型産学官連携促進事業』(事業費3億円、3年間)が採択されました。本学の研究レベルが高く評価されていることを示すものであります。

8月30日には研究推進をはかるために、(財)八戸地域高度技術振興センター主催の機械情報技術学科研究室めぐりが行われることになっております。

電気電子工学科ニュース

平成15年4月

電子知能システム学科誕生

電気電子工学科は、北東北の産業振興と人材育成という地域社会からの要請に応え、昭和47年4月、八戸工業大学開設と同時に電気工学科として設置され、その後平成11年4月に現在の名称へ変更致しました。

開設当時のカリキュラム編成は、

電力工学及びエネルギー変換工学のパワー分野が主体でしたが、電子工学、制御工学分野の科目も取り入れ、調和の取れた人材の育成と研究に努めて参りました。その後、電子技術の飛躍的な発展にともない、電子・通信工学及び情報・制御工学分野の教員の充実と教育内容及び研究の充実を一層図って、同時に電気電子工学科へ名称変更致しました。

さて、21世紀においては、

コンピュータの高度な応用が最も重要な技術として捉えられていることから、平成13年4月に電気電子工学科のカリキュラムを変更し、教育研究分野を情報・通信・メディア工学系、エレクトロニクス系及びエネルギー・システム制御工学系分野へ移行し、現在はハードウェアとソフトウェアを中心とした知能化技術と情報通信システム及びエネルギー・システムに関する教育研究を行っています。今年度からは、本学のプロジェクト研究として、知能ロボットによる地雷探査システムの開発研究も始まりました。さらに、学生実験においては、知能ロボットの製作実習も開始致します。このように、ロボットを中心とした知能化技術、システム化

技術に関する教育・研究を積極的に

行っており、本学入学志願者及び地域社会に対し、教育研究内容を適切に表示する意味から、平成15年4月、「電気電子工学科」の名称を「電子知能システム学科」に変更致します。なお、「電子知能システム学科」は、電気電子工学科の教育内容も含有しているため、従来通り電気主任技術者や電気通信主任技術者の資格の認定学科となります。

その他の話題として、電気電子工学科の教育プログラムが国際水準を満たしていることを証明するために、今秋JABEE(日本技術者教育認定機構)の試行審査を受審することになっております。



知能ロボットの製作実習

高速交通体系北へ 新幹線、高速道路相次ぎ開通

東北新幹線盛岡―八戸間の開業、八戸自動車道(八戸JCT―八戸北IC)の開通など北東北の高速交通体系が大幅に強化されることになりました。東北新幹線は、八戸―盛岡間が12月1日開業。八戸駅起終新幹線の名称も「はやて」と決まりました。

開業に合わせて、1999年10月から行なわれていた八戸駅の全面改良工事も新幹線開通を除く部分が完成し、7月1日にオープンしました。新幹線、在来線駅舎とも橋上化された新しい八戸駅は、利便性向上や交通弱者に配慮されており、市民や利用者からも好評です。また、八戸駅東口には駅ビルも11月21日にオープンする予定です。7月18日からは走行試験もスタートし、開業にむけ、着々と準備が進められています。

また、高速道路も、工事が行なわれていた東北縦貫自動車道八戸線の八戸ジャンクション、八戸北インター間も7月に完成して、八戸北インター―三沢間の高規格道路の百石道路、第二みちのく有料道路と接続され、首都圏から青森県上北・下北地方へのアクセスが容易になりました。

新幹線の開業、高規格道路の延伸を受けて、青森県や県内の地方自治体及び民間企業の対応も活発化し、さまざまな組織が発足され、観光産業分野をはじめ様々な分野でも産業振興策が検討されており、市民レベルでも様々な取り組みを計画しています。

高速交通体系の大幅な強化による交通(量)量の拡大や利便性の向上などに伴って、地域経済

八戸市大字妙字大開八八一

八戸工業大学

同窓会 行

郵便はがき 031-8790

4 4 2

料金受取人私 八戸局承認 16

差出有効期間 平成15年2月28日まで ※有効期間内は切手を貼らずに投函して下さい。有効期間後は50円切手を貼って下さい。





# エネルギー工学科OB会 通信

## 第4回 エネルギー工学科OB会 八戸三社大祭の日に決定

八戸工業大学創立30周年おめでとうござい  
います。

今思い起こすと、私と八戸工業大学  
は、1982年にエネルギー工学科の一期生と  
して本学に入学してからのお付き合いですか  
ら20周年にもなります。「光陰矢の如し」  
とはよく言ったもので、歳を取るたびに時間の  
進みが速くなっているように感じます。

もう既に、エネルギー工学科OB会の皆さん  
もご周知のこととおもいますが、八戸工業大学  
では今年から学科再編にともないエネルギー  
工学科の学生を募集していません。

現在の2年生が卒業すると同時に無くなっ  
てしまいます。卒業生の私としても残念です  
ですが、これも、時代の流れかもしれませんの  
でいたし方がないのかもしれない。

学科名は、他の機械工学科、電気工学科、  
土木工学科も変更になり、現在の八戸工業大学  
の学科は、機械情報技術学科、電気電子工学科  
環境建設工学科、建築工学科、生物環境化学工  
学科、エネルギー工学科、システム情報工学科  
の計7学科です。3年後には我々のエネルギー  
工学科が無くなり、6学科になります。

学科の名前が無くなるのは寂しい限りです。  
しかし、エネルギー工学科OB会は、永遠に  
不滅です。と言えるような活発な活動をして  
いきたいところです。

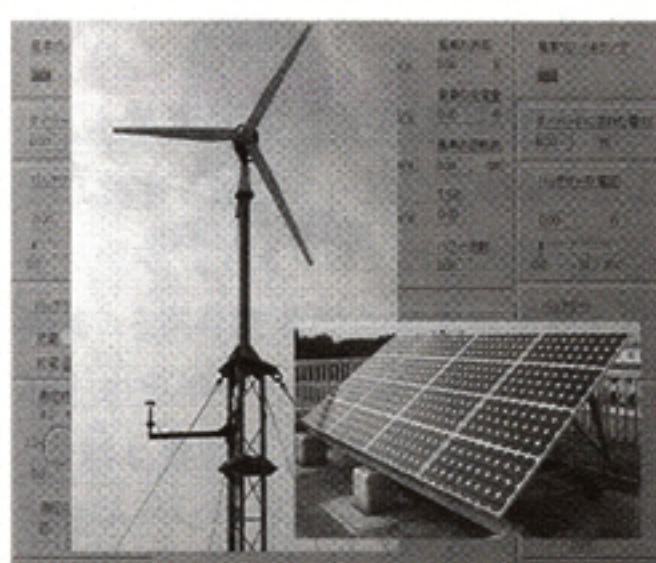
今年の12月1日、東北新幹線が八戸まで  
開通します。それに合わせて、以前よりアナ  
ウンスしていたようにエネルギー工学科OB  
会(同窓会)を開催します。これは予定  
なので、今後変更されるかもしれませんが、  
出来るだけ大勢の人に参加してもらいたいので  
暫定的に掲載します。

開催日時 2003年8月2日(土)  
時間 午後6時  
開催場所 八戸グランドホテル

今年の5月に仙台で行われた東北支部同  
窓会では、エネルギー工学科OBは、たつ  
た一名だけの参加でした。同窓会への参加  
は、懐かしい友人に再会するだけではなく、  
多方面で活躍している仲間たちとの情報交  
換の場ともなります。是非にも多数方が参  
加されることを願います。また、お近くに  
友人がおられましたら、お誘い合わせの上  
参加して頂ければと思います。  
特に1期生は、全員参加ということによ  
ろしく願います。

また、これまで同窓会の顧問をして頂い  
た村中健先生ですが、職務多忙のため今  
回の八戸での同窓会を機に、我がエネルギ  
ー工学科OBでもあり八戸工業大学の先生  
に成りました高橋晋先生に顧問を引き継  
ぐことになりました。  
村中先生これまで、エネルギー工学科同  
窓会のために、ご尽力頂きありがとうございました。  
顧問終了後もエネルギー工学科OB  
会をよろしく願います。  
それでは、エネルギー工学科OB会の皆  
さん、来年の夏お会いしましょう。

OB会会長 荒谷 一豊



エネルギー棟の屋上に設置してある  
風車と太陽電池パネル

「映像で見る 八  
工大の発展コー  
ナー」など、楽  
しいイベントを  
用意しておりま  
す。  
また、当日は  
現職の教職員の  
みならず、すで  
に退職された先  
生方もご参加し  
てくださいませ  
ので、同窓生の  
皆様は友人をお  
誘い合わせの上  
ふるってご参加  
ください。  
さらに10月19日(土)と20日(日)は、八工大  
の学園祭も行われております。ご家族と一緒  
にお出でになられても楽しい休日をご過ごさ  
ると思えます。

東京八戸間  
最速2時間50分台

東北新幹線  
八戸駅開業

12月1日 開業

東北新幹線八戸駅開業のシンボルマーク

## 第2回 同窓会総会開催

来る10月19日(土)、第2回 八戸工業大学  
同窓会総会を開催いたします。  
同窓会総会は、昨年と同様に第1部・講演会、  
第2部・懇親会の2部構成で行われます。  
第1部の講演会では、講演者として八戸市助  
役の大原 隆氏をお招きして、「八戸市政か  
ら期待する八戸工業大学」という演題で御講演  
をして頂きます。  
第2部の懇親会では吹奏楽部による演奏や



昨年の同窓会総会のひとまぐ

同窓会事務局の連絡先(各種連絡先としてご利用ください)

事務局名	TEL	E-mail
本部事務局 (学生部学生課)	0178-25-8027	dosokai@hi-tech.ac.jp
機械・産業機械工学科 (機械情報技術学科事務室)	0178-25-8010	dosokai-m@hi-tech.ac.jp
電気工学科 (電気電子工学科事務室)	0178-25-8020	dosokai-e@hi-tech.ac.jp
土木工学科 (シビル会事務局)	0178-25-8058	dosokai-c@hi-tech.ac.jp
建築工学科 (建築工学科事務室)	0178-25-8040	dosokai-a@hi-tech.ac.jp
エネルギー工学科 (エネルギー工学科事務室)	0178-25-8050	dosokai-p@hi-tech.ac.jp

同窓会半期(10/3月) 行事予定

10月19日(土)  
定例理事会  
第2回 同窓会総会  
場所: 八戸グランドホテル  
時間: 午後6時から

第一部・講演会  
八戸市助役・大原 隆氏  
「八戸市政から期待する八戸工業大学」  
第二部・懇親会

10月19日(土)・20日(日) 学園祭

10月20日(日)  
八戸工業大学 ゴルフコンペ  
場所: グランドール 久慈  
スタート: 8時26分  
お問合せ先: シビル会事務局

11月中旬: 彩才祭

3月中旬: 定例理事会

3月20日(木) 3月19日(水) 予定  
平成14年度 学位授与式

提出 年 月 日

### 会員状況(異動)届&同窓会参加通知書

氏名 (旧姓) \_\_\_\_\_  
E-mail  \_\_\_\_\_  
学 科 \_\_\_\_\_  
卒 業 昭和・平成 年 月 \_\_\_\_\_  
学籍番号 \_\_\_\_\_  
現住所 〒 \_\_\_\_\_  
  Tel \_\_\_\_\_ Fax \_\_\_\_\_

勤務先 \_\_\_\_\_  
役職名 \_\_\_\_\_  
勤務先 〒 \_\_\_\_\_  
住所  \_\_\_\_\_  
 Tel \_\_\_\_\_ Fax \_\_\_\_\_

第2回 八戸工業大学同窓会総会 (10/19)  
参加 不参加

平成14年10月10日締め切り

このはがきは、同窓会参加あるいは現住所等に変更があつたときは必ずお送りください。名簿に記載を希望しないときは□内に×印をしてください。